YAGI

地上デジタル放送用マルチチャンネルヘッドアンプ
ＤＨＡ２ 取扱説明書

●このたびは八木アンテナ製品をお買い上げありがとうございます。
製品を正しく安全に運用していただくために、ご使用前に「取扱説明書」を必ずお読みください。

●「取扱説明書」は、いつでも見られるように大事に保管してください。

目　　次

安全上のご注意	・・・Ｐ．２
１．製品概要	・・・Ｐ．４
２．特長	・・・Ｐ．４
３．仕様	・・・Ｐ．５
４．製品構成・型式	・・・Ｐ．７
５．外観図	・・・Ｐ．８
６．付属品	・・・Ｐ．８
７．筐体の取付方法	・・・Ｐ．９
８．筐体の開け方・閉じ方	・・・Ｐ．９
９．接栓の接続方法	・・・Ｐ．９
１０．各部の名称と構成	・・・Ｐ．１０
１１．入力端子への送電方法	・・・Ｐ．１６
１２．レベル調整	・・・Ｐ．１８
１３．入力端子の切替方法（ＬＩＮＥ/Ａ、ＬＩＮＥ／Ｂ）	・・・Ｐ．２１
１４．保守・メンテナンス	・・・Ｐ．２２
１５．ブロックダイヤグラム	・・・Ｐ．２５

安全上のご注意

●ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
●ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様（自分自身）や他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するためのものです。
　また、注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を**「警告」**、**「注意」**の２つに区分しています。
　いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
●お守りいただく内容の種類を絵表示で区分し、説明しています。

⚠ **警告**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。 図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
	○記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な内容（左図は「電源プラグをコンセントから抜いてください」）が描かれています。

⚠警告

煙がでる、変なにおいや音がする時は使用をやめる。 ●すぐ電源プラグを抜き、煙が出なくなるのを確認してから販売店に連絡してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。	電源コードをはさみこんだり重いものをのせたりしない。 ●電源コードが破損して火災･感電の原因になります。
屋内用機器の内部に水や異物が入ったら電源プラグを抜く。 ●そのまま、使用すると火災や感電の原因になります。販売店にご連絡ください。	機器を落として破損した状態や故障した状態では使用しない。 ●火災・感電の原因になります。販売店にご連絡ください。
修理技術者以外の人は絶対に分解したり修理・改造は行わない。 ●火災・感電の原因になります。内部の点検、整備、修理は販売店にご連絡ください。	電源コードを傷つけたり、加工したり、破損したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、束ねたりしない。 ●電源コードが破損して、火災、感電の原因になります。
電源コードや電源プラグが傷ついたりコンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 ●火災・感電の原因になります。	内部に異物を入れたりしない。 ●火災・感電の原因になります。
雷が鳴り出したら機器や接続コードには絶対に触れない。 ●感電の原因になります。	電源プラグは、刃や刃の取付面にほこりがつかないようにする。また、ほこりが付着している場合はふき取る。 ●火災の原因になります。
表示された電源電圧以外は使用しない。 ●火災・感電の原因になります。	機器の質量（重量）に耐えられる場所に設置する。 ●落下により怪我の原因になります。

⚠注意

電源コードを抜くときは、電源コードを持たず、必ず電源プラグを持って抜く。 ●電源コードが破損して、火災、感電の原因になります。	電源コードをはさみこんだり重いものをのせたりしない。 ●電源コードが破損して火災･感電の原因になります。
濡れた手で電源プラグをぬきさししない。 ●感電の原因になります。	長時間ご使用にならない時は必ず電源プラグをコンセントから抜く。 ●火災・感電の原因になります。
湿気やほこりの多い場所に置かない。 ●火災・感電の原因になります。	機器の上にのったり足をかけない。 ●破損や落下によりけがの原因になります。
アース接続は必ず行う。 ●ショートや落雷により、火災・感電の原因になります。	――――――

1.製品概要

本装置は、地上デジタルテレビジョン放送のチャンネル間におけるレベル差を解消、帯域外の不要信号を除去、更に希望のチャンネルに周波数変換し、レベル設定することにより、テレビ共同受信施設の伝送路に適した信号を供給します。

変調方式は変更しませんので、市販の受信機にて地上デジタル放送を受信することができます。

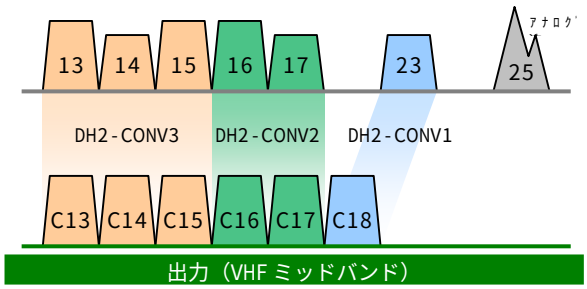
（但し、周波数変換パススルー方式対応である必要があります。受信機によっては再設定が必要なこともあります）

2.特長

①チャンネルコンバータユニットを、最大 5 ユニット実装することができます。

②チャンネルコンバータユニットは、従来の 1 ユニット 1ch 方式から、1 ユニットで最大 3ch までを変換するラインナップを揃えております。設置地域のチャンネル配列に合わせ、各種組み合わせによる対応が可能です。

DH2-CONV1　：　指定の 1ch を変換
DH2-CONV2A　：　指定の隣接 2ch を変換
DH2-CONV2B　：　指定の隣々接 2ch を変換
DH2-CONV3　：　指定の 3ch を変換

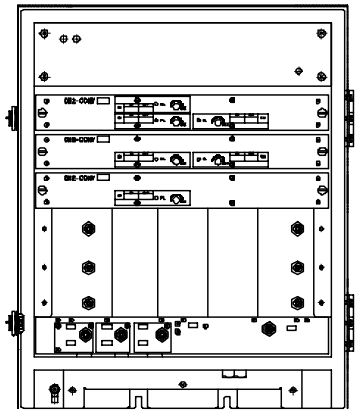


チャンネル構成例

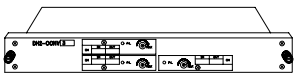
③４種類のチャンネルコンバータユニットを組み合わせることにより、消費電力を少なく抑えられています。

④各チャンネルの出力は、ＡＧＣ機能により安定したレベルが確保できます。

⑤各入力端子からは、同軸重畳により電源供給（AC30V）が可能です。
前置増幅器等への電源として、ご使用いただけます。



[DHA2 本体 (扉開放時)]



[チャンネルコンバータユニット]

３．仕様

３．１　本体

（１）基本

項　目		定　　格	備　考
受信チャンネル		UHF13～62ch	地上デジタル放送
送信チャンネル		MID 帯 C13～C22ch 及び VHF 放送波帯の 1～12ch	-
出力チャンネル数		最大 8 波	-
実装スロット数（コンバータ）		最大 5（LINE：5 又は、LINE：3 / HEAD：2）	-
RF 入力端子数		混合 1、別々2	受注時に指定
外形寸法		351(W)×427（H）×160（D）	突起物を除く
重　量		19kg 以下 （DH2-CONV3×1、CONV2A×1、CONV1×3 実装時）	附属品を除く
設置条件		屋外仕様	防滴、ポールマウント取付
冷却方式		自然空冷	-
使用温度範囲		-20～40℃	-
端子形状	入　力	F 型　（75Ω）	-
	出　力	FT 型　（75Ω）	
	入出力モニタ	F 型　（75Ω）	

（２）性能

項　目		定　　格	備　考
標準入力レベル		60±10dBμV	-
標準利得		40dB 以上	-
最大出力レベル		90dBμV 以上	-
利得安定度		±2.0dB 以内	AGC 動作時
周波数偏差		±20kHz 以内	-
帯域内偏差		5dBp-p 以内	-
入出力 VSWR		2.0 以下	入力 F 型、出力 FT 型
雑音指数		10dB 以下	利得最大時
モニタ端子結合量	入　力	-10dB	各入力端子に対して
	出　力	-20dB	-
レベル調整ＡＴＴ	入　力	0/-10dB（切替式）	各入力端子に対して
	出　力	0/-10dB（切替式）	-
	コンバータ部	0～-10dB 以上（連続可変）	各チャンネルに対して
不要放射		34dBμV/m 以下	IEC 法による
入力送電		AC30V（総容量 1.0A 以下、各端子容量 0.5A 以下）	前置増幅器用

項　目	定　　格	備　考
電源電圧	①AC100V ②AC30V　（出力端子より重畳） ③AC60V　（出力端子より重畳）	受注時に指定
消費電力	30VA 以下 （8 波伝送時、AC30V、無給電）	-
耐雷性	±15kV　（1.2/50μs）	-

※本製品は特性改善のため、仕様が変わることがあります。

４．製品構成・型式

本機は、屋外に設置する本体（筐体）と、本体内部に実装されるチャンネルコンバータユニットにより構成されます。

４．１　本体

チャンネルコンバータユニットを最大５ユニット実装できる、屋外型筐体です。
電源仕様及び、局数により、本体型式が異なります。

型　式：　ＤＨＡ２Ｖ□□Ｗ

- 設置環境（「W」：屋外）
- 電源仕様（「１」：AC100V、「２」：AC30V、「３」：AC60V）
- 再送信局数　（「１」～「８」）
- パススルー方式　（「V」：UHF から VHF に変換）

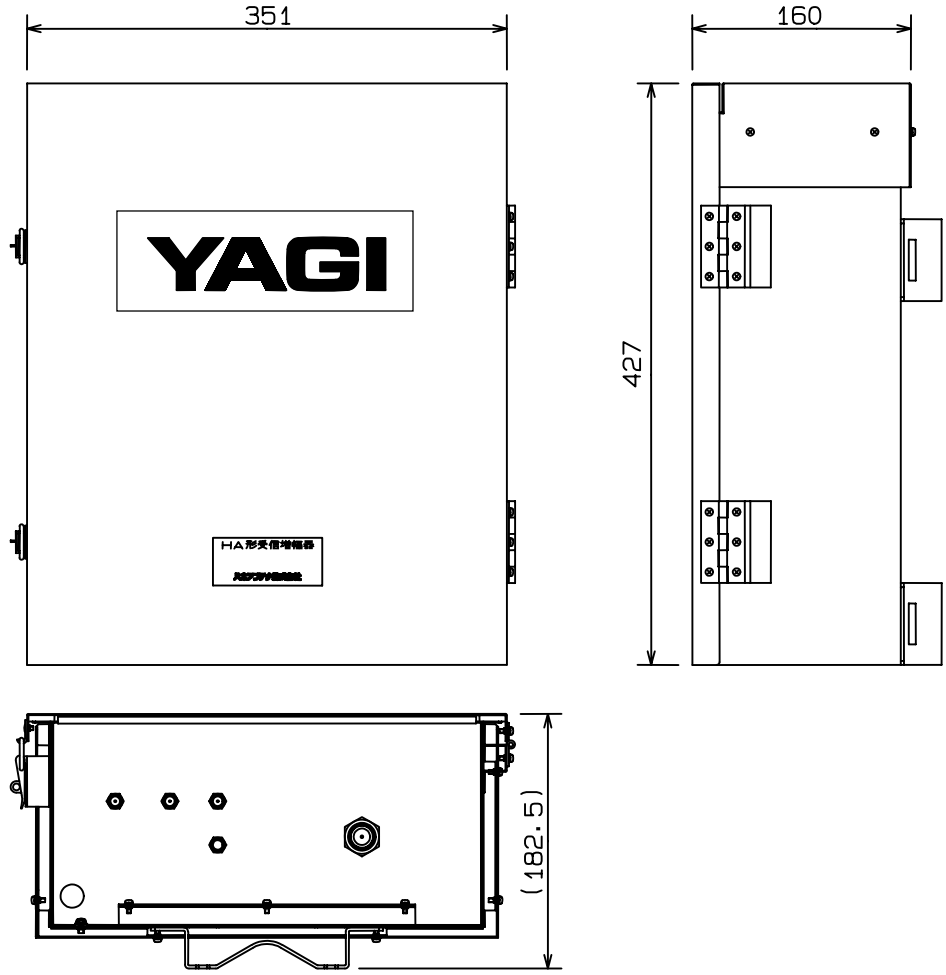
４．２　チャンネルコンバータユニット

UHF 帯での伝送ができない施設において、ミッドバンド及び VHF チャンネルへ周波数変換を行い再送信するユニットです。

型　式：　ＤＨ２－ＣＯＮＶ□（□）

- パススルー方式（UHF から VHF に変換：「ＵＶ」）
- １ユニットでの変換チャンネル数
  - 「１」　：指定の１チャンネル
  - 「２Ａ」：指定の隣接２チャンネル
  - 「２Ｂ」：指定の隣々接２チャンネル
  - 「３」　：指定の隣接３チャンネル

5．外観図



6．付属品

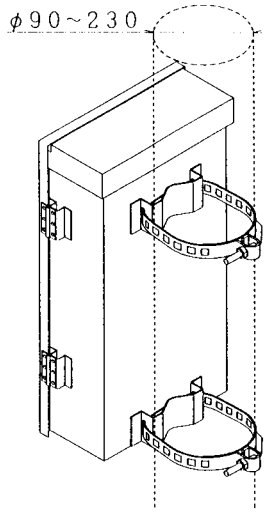
- 取扱説明書　１部
- 保証書　１部
- 点検記録ラベル　１枚
- 自在バンド（ボルト付属）　２組
- 予備ヒューズ（電源ユニット保護用（AC100V 時のみ））
  2.0A　１ヶ
- 予備ヒューズ（入力送電保護用）
  AC60V、AC100V 時：　1.0A　１ヶ
  AC30V 時　：　2.0A　１ヶ

***梱包材の廃棄についてのお願い**

自治体により異なりますが、一般的に事業ごみとなりますので廃棄については各自治体の条例に従い廃棄下さるようにお願い致します。

７．筐体の取付方法

●取付は、地面に対して垂直に立てられたポールに設置してください。



取付方法

⚠ 注意

本装置の質量に耐えられる場所に設置する。
●落下によりけがの原因になります。

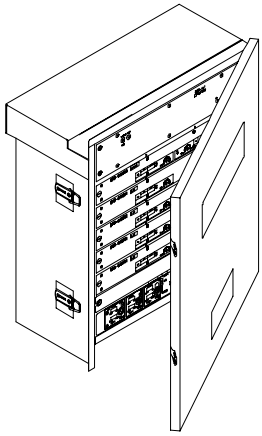
設置した本装置の上には絶対に乗ったり、足をかけない。
●落下によりけがの原因になります。

●本製品をボックス内で使用する場合には、深さ 250㎜ 程度ならびに十分な通風孔を備えた空間容量の大きいものを選択してください。

８．筐体扉の開け方・閉じ方

●屋外用筐体の扉は片側が蝶番で、安全のため扉が筐体から取れない構造になっています。
２カ所のフックを外して静かに扉を開いて下さい。

●作業終了後は、扉を閉めて２カ所のフックを確実に止めて下さい。
筐体内部に雨水が入る恐れがあります。



筐体扉の開け方

⚠ 注意

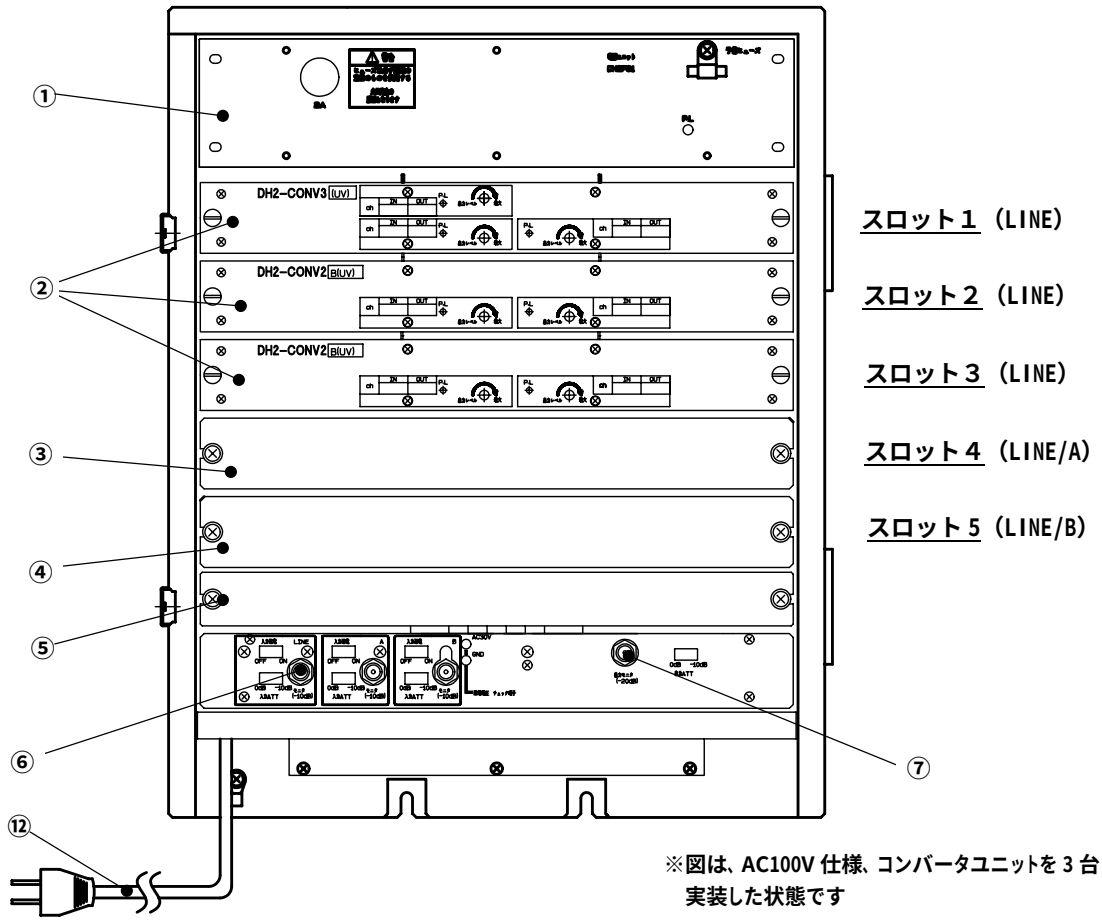
扉の開閉は注意すること。
●指を挟んでけがをする恐れがあります。

９．接栓の接続方法

●入力側はＦ形接栓、出力側はＦＴ形接栓専用となります。
●Ｆ形接栓は、防水形をご使用ください。
●ケーブルの太さ・種類によって加工方法は異なります。
●入力と出力のケーブルは絶対に交差させないで下さい。
高利得のため、出力不安定の原因となります。
●ケーブルの接続後は、必ず自己融着テープ等による防水処理を行ってください。
ショートや腐食による接触不良の原因となります。

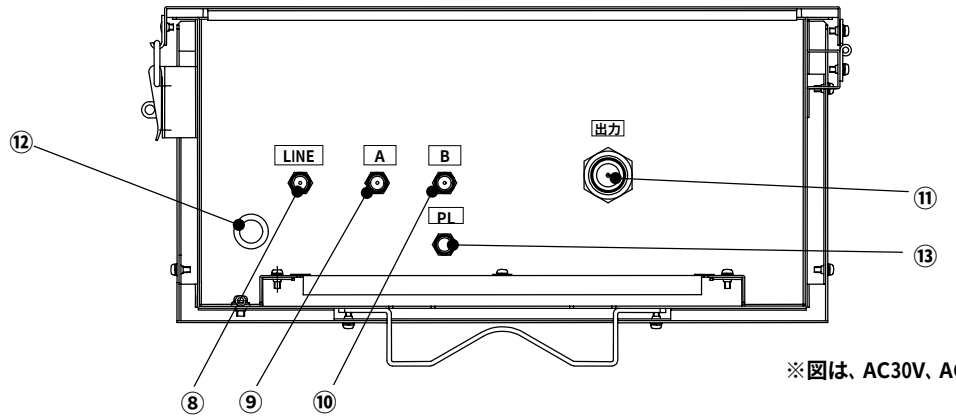
１０．各部の名称と構成

１０．１　本体



※図は、AC100V 仕様、コンバータユニットを 3 台実装した状態です

本体（扉開放時）

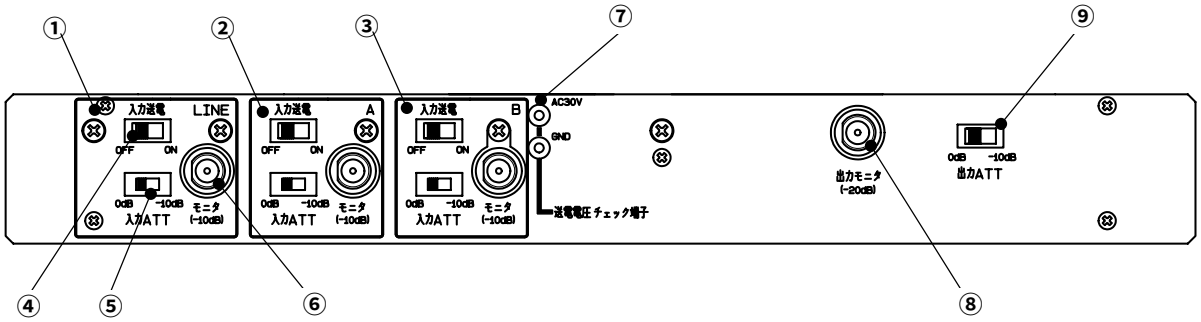


※図は、AC30V、AC60V 仕様の状態です

本体（底面）

名　　称	内　　容
①電源ユニット	装置本体の電源ユニットです。 仕様によりＤＨ２ＰＳ１（AC100V）、ＤＨ２ＰＳ２（AC30V）、 ＤＨ２ＰＳ３（AC60V）いずれかが実装されます。
②コンバータユニット 実装スロット （LINE）	チャンネルコンバータユニットを実装するスロット 1～3 です。 全てのスロットがライン入力端子に接続されます。 未実装時には、ブランクパネルを実装します。
③コンバータユニット 実装スロット （LINE/ A）	チャンネルコンバータユニットを実装するスロット 4 です。 ライン又はヘッドーＡ入力端子に接続されます。 各入力端子の切替方法は、「１３．入力端子の切替方法（ＬＩＮＥ/Ａ、ＬＩＮＥ／Ｂ）」を参照ください。 未実装時には、ブランクパネルを実装します。
④コンバータユニット 実装スロット （LINE/ B）	チャンネルコンバータユニットを実装するスロット 5 です。 受注仕様により、ライン又はヘッドーＢ入力端子に接続されます。 各入力端子の切替方法は、「１３．入力端子の切替方法（ＬＩＮＥ/Ａ、ＬＩＮＥ／Ｂ）」を参照ください。 未実装時には、ブランクパネルを実装します。
⑤ブランク （ブランクパネル付）	本機では未使用のため、ブランクパネルを実装します。
⑥入力モニタ端子	⑧～⑩各入力のモニタ端子（-10dB）です。
⑦出力モニタ端子	⑪出力のモニタ端子（-20dB）です。
⑧入力端子 （LINE）	ライン入力用の端子です。 ヘッド入力未使用時は、スロット 1～5 に信号を分配します。 ヘッド入力使用時は、スロット 1～3 に信号を分配します。 また、スイッチ操作により AC30V の送電が可能です。 送電方法は、「１１．入力端子への送電方法」を参照ください。
⑨入力端子 （A）	ヘッド入力用の端子です。 ヘッド入力使用時は、スロット 4 に信号が伝送されます。 また、スイッチ操作により AC30V の送電が可能です。 送電方法は、「１１．入力端子への送電方法」を参照ください。
⑩入力端子 （B）	ヘッド入力用の端子です。 ヘッド入力使用時は、スロット 5 に信号が伝送されます。 また、スイッチ操作により AC30V の送電が可能です。 送電方法は、「１１．入力端子への送電方法」を参照ください。
⑪出力端子 （出力）	再送信信号が出力されます。 また電源仕様が AC30V、AC60V の場合は、本端子からケーブル重畳により電力受電します。
⑫AC100V 用電源コード	AC100V 用電源コードです。（上図（扉開放時）） また電源仕様が AC30V、AC60V の場合は、グロメットで塞いであります。（下図（底面））
⑬ＰＬ表示灯	本機の状態表示用パイロットランプです。 点　灯（青）：　通電時 消　灯　　：　電源 OFF

１０．２　操作パネル

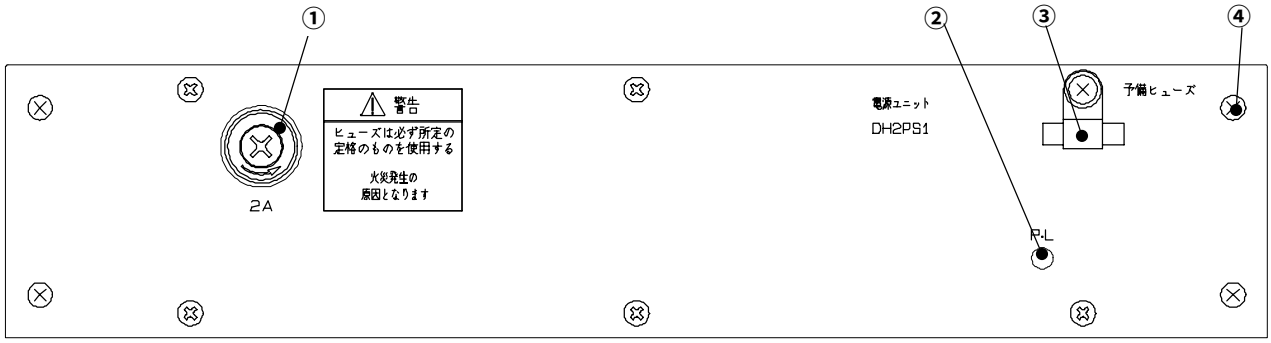


①ＬＩＮＥ入力操作部	ライン入力に対して、操作等を行います。
②Ａ入力操作部	ヘッドＡ入力に対して、操作等を行います。
③Ｂ入力操作部	ヘッドＢ入力に対して、操作等を行います。
④入力送電スイッチ	各入力端子に対し、送電を ON/OFF します。
⑤入力ＡＴＴスイッチ	各入力信号に対し、0 又は-10dB のアッテネータを挿入します。
⑥入力モニタ端子	各入力端子に対するモニタ端子(-10dB)です。
⑦送電電圧チェック端子	送電電圧のチェック用端子です。
⑧出力モニタ端子	出力端子に対するモニタ端子(-20dB)です。
⑨出力 ATT スイッチ	出力信号に対し、0 又は-10dB のアッテネータを挿入します。

１０．３　電源ユニット

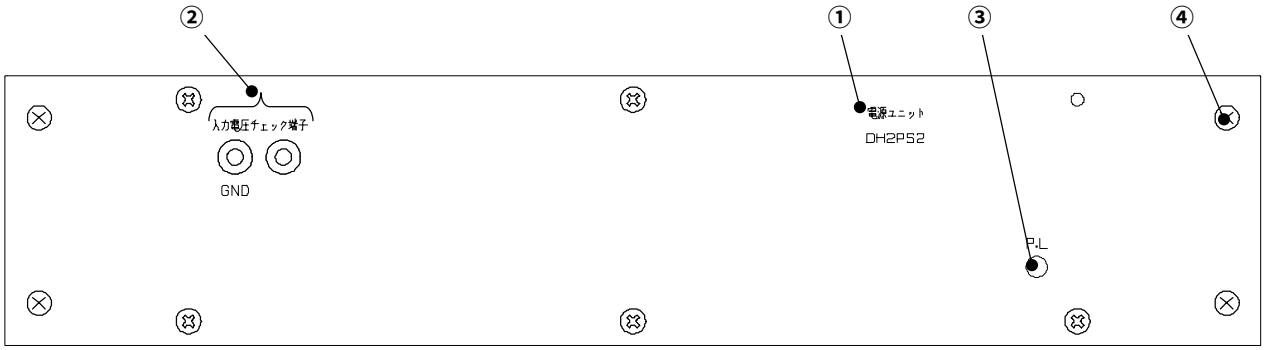
電源仕様により、ＤＨ２ＰＳ１（AC100V）、ＤＨ２ＰＳ２（AC30V）、ＤＨ２ＰＳ３（AC60V）があります。

⑴ ＤＨ２ＰＳ１（AC100V）



①保護ヒューズ	本ユニットの保護用ヒューズです。
②PL ランプ	電源ユニットの動作状態を示す、パイロットランプです。 点　灯（緑）：　運用時 消　灯　　：　電源 OFF
③予備ヒューズ （2.0A）	①の予備用です。
④本体取付用ねじ （４箇所）	本体取付用のネジです。

⑵ ＤＨ２ＰＳ２（AC30V）、ＤＨ２ＰＳ３（AC60V）



①名称	ユニットの名称が表記されます。 ＡＣ３０Ｖ：　『ＤＨ２ＰＳ２』 ＡＣ６０Ｖ：　『ＤＨ２ＰＳ３』
②入力電圧チェック端子	出力端子からの受電電圧チェック用端子です。
③PL ランプ	電源ユニットの動作状態を示す、パイロットランプです。 点　灯（緑）：　運用時 消　灯　　：　電源 OFF
④本体取付用ねじ （４箇所）	本体取付用のネジです。

●ＤＨ２ＰＳ２（AC30）又は、ＤＨ２ＰＳ３（AC60）で運用する場合、入力電圧チェック端子で受電電圧が適切であることを必ず確認してください。

●本装置を他の機器と組み合わせて使用する場合は、送電電流の容量と短絡等に注意してください。過電流が流れた場合、保護ヒューズが断となることがあります。

●本装置の電源ユニットはスイッチング電源ですので、受電電圧が低下するに従って消費電流が増加します。

●電源供給器からの同軸ケーブル長が長い場合、本装置への受電電圧が低下します。必ず受電電圧を確認してください。

⚠ 注意

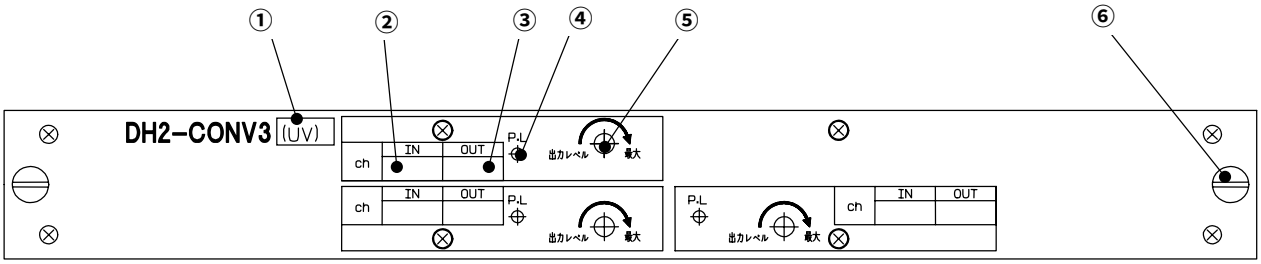
修理技術者以外の人は電源ユニットの交換は行わないこと。
●火災・感電の恐れがあります。

ヒューズを交換する場合は、電源プラグを抜き、同一規格・形状のものを使用する。
●火災の原因になります。

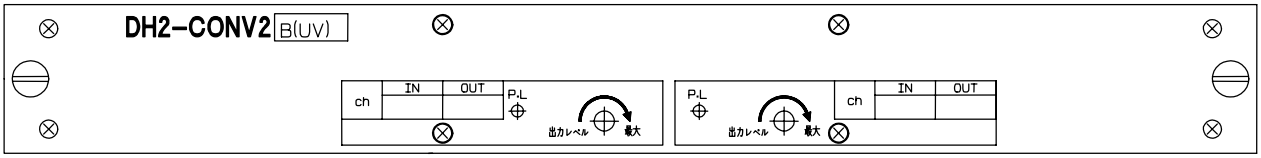
本装置への送電は入力端子から行わない。
●火災の原因になります。

１０．４　チャンネルコンバータユニット

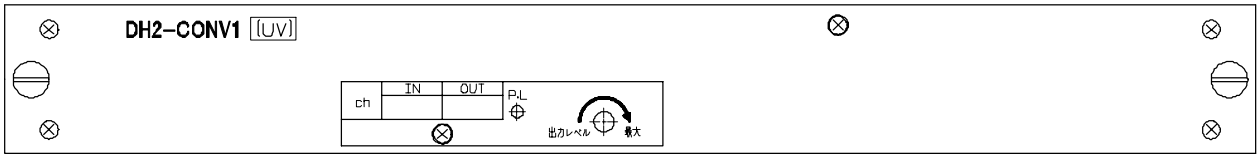
チャンネルの配列と波数により、ＣＯＮＶ３（隣接３波）、ＣＯＮＶ２Ａ（隣接２波）、ＣＯＮＶ２Ｂ（隣々接２波）、ＣＯＮＶ１（１波）があります。



DH2－CONV3 (隣接3波)



DH2－CONV2A (隣接2波)、2B (隣々接2波)



DH2－CONV1 (1波)

①ユニット名称	チャンネルコンバータユニットの名称が明記されます。
②入力チャンネル表示	入力チャンネル番号の明記欄です。 変換チャンネル別に表示されます。
③出力チャンネル表示	出力チャンネル番号が明記欄です。 変換チャンネル別に表示されます。
④ＰＬランプ	信号処理部の状態表示用パイロットランプです。 変換チャンネル別に表示されます。 点　灯（緑）：　当該チャンネルの信号入力あり　（運用時） 〃　（赤）：　入力レベル低、又は当該チャンネルの信号入力無し 消　灯　　：　ユニット電源　OFF
⑤出力レベル調整 ボリューム	変換処理した出力信号のレベルを、0～10dB 連続可変できます。 変換チャンネル別に、操作が可能です。
⑥ローレットネジ （２ヶ）	本体取付用のローレットネジです。

１１．入力端子への送電方法

送電される電圧をテスタ等を用いて確認した後、「入力送電」スイッチを操作してください。

送電電圧の確認方法は、電源仕様により異なります。

１１．１　送電電圧の確認

本体下にある「送電電圧チェック端子」にテスタ等を用いて、入力送電される電圧を確認してください。

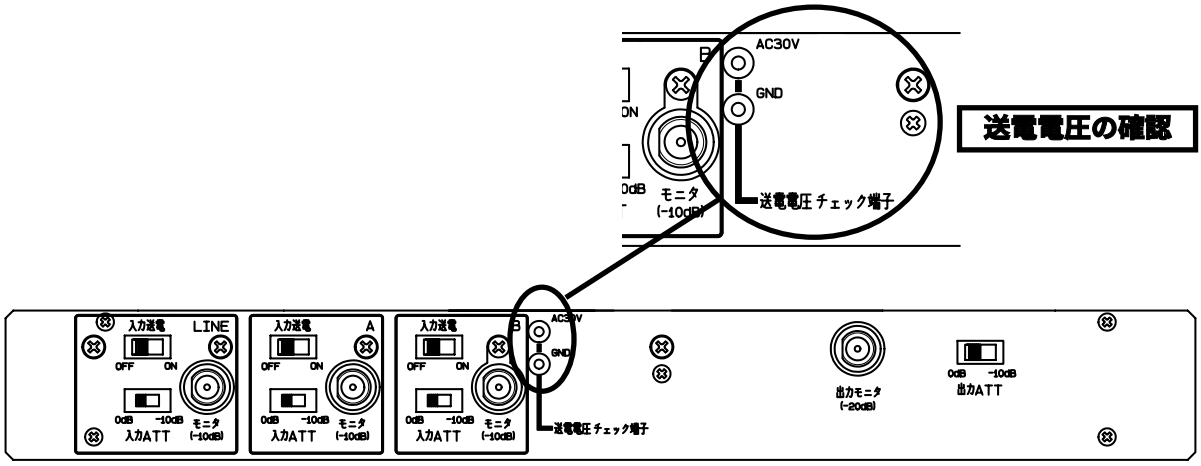
電源仕様が AC30V の場合、出力受電した電圧がそのまま送電されます。

電源仕様が AC100V 又は AC60V の場合、内部トランスで降圧した電圧が送電されます。

尚、入力送電回路には、電源ユニット背面に保護用ヒューズが設けられています。

短絡等によりヒューズ断となった場合は、原因を取り除いてから「１３．３　入力送電　保護ヒューズ交換」に従い、ヒューズを交換してください。

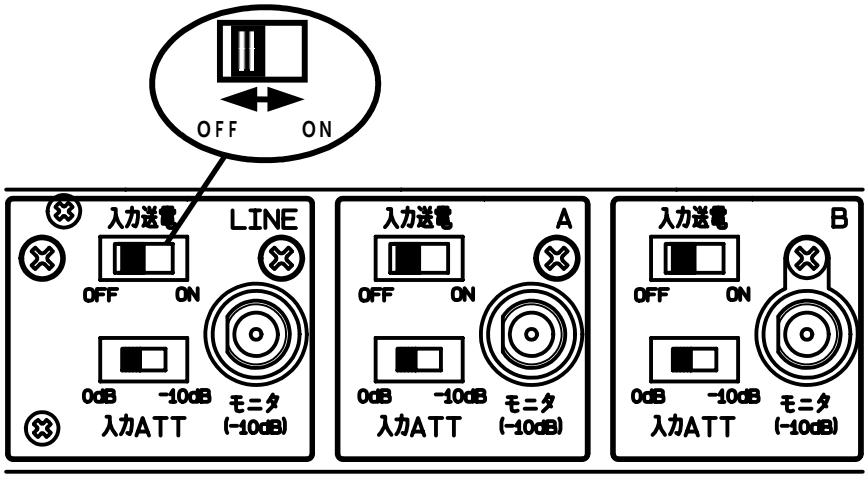
ヒューズ断時は、「送電電圧チェック端子」に電圧は出力されません。



１１．２　入力送電　ＯＮ／ＯＦＦ

本装置前段の増幅器(前置増幅器)に給電する場合、各入力端子に設けてある「入力送電」スイッチを確実に「ＯＮ」側へ切り替えてください。

１１．１項で確認した電圧が、各端子から送電されます。



⚠ 注意

入力端子毎の入力送電容量は、必ず０．５Ａ以下で使用すること。

全端子の送電容量の合計が必ず１Ａ以下になる様に使用すること。

入力送電を行わない端子は、必ず入力送電スイッチを「OFF」にすること。
●接続状態によっては、機器を破損する恐れがあります。

１２．　レベルの調整

本体設置後、本装置を正しく動作させるために、各部のレベル調整を行ってください。

１２．１　入力レベルの調整方法

（１）入力モニタ端子の測定

●入力レベルは入力モニタ端子（－１０ｄＢ）で測定することができます。
実際の入力レベルは、測定値に１０ｄＢを加えた値となります。

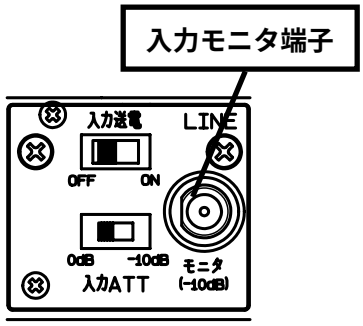
●本装置のＡＧＣ機能を正しく動作させるために、受信信号を下表の範囲で入力してください。

●下表のレベル範囲外ではＡＧＣ回路が正常に動作しませんので、注意してください。

●近傍の放送信号との入力信号差は、１０ｄＢ以下となるよう調整してください。

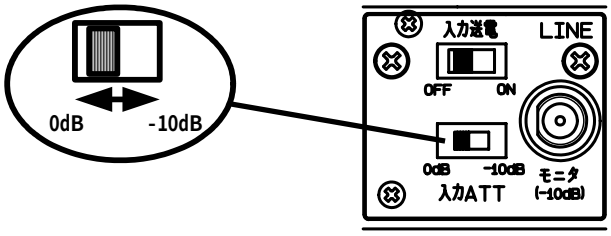
適正入力範囲

入力モニタ端子の測定レベル	実際の入力レベル
４０～６０ｄＢμＶ	５０～７０ｄＢμＶ

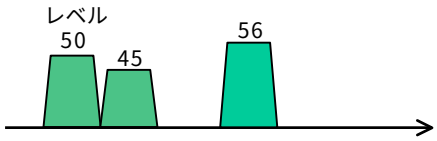
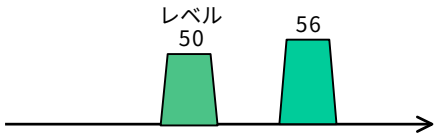
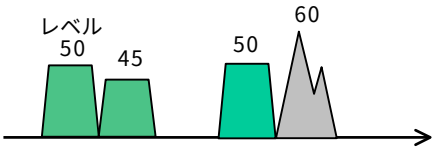
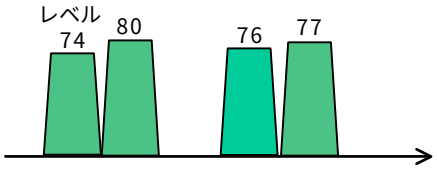
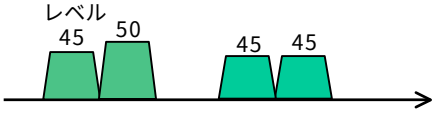


（２）入力レベルの調整方法（本体操作パネル部）

●各入力端子の受信信号は、本体の操作パネル部にある「入力ＡＴＴ」スイッチで、０ｄＢ／－１０ｄＢいずれかに調整することができます。
スイッチを操作するときは、確実に切り替えてください。



（3）入力レベルの調整例

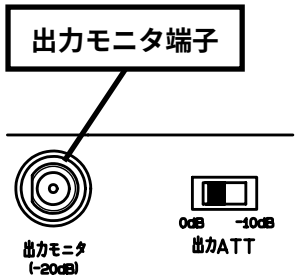
例	入力モニタ測定レベル	調　整　方　法
1	・ライン入力時、いずれかのレベルが５５ｄＢμＶ以上の場合 	ラインの入力アッテネータを－１０ｄＢ側に切り替えてください。
2	・ヘッド入力時、いずれかのレベルが５５ｄＢμＶ以上の場合 	ヘッドの入力アッテネータを－１０ｄＢ側に切り替えてください。
3	・ＵＨＦ帯域に不要波がある場合 	使用するデジタルチャンネルの最低レベルに比べ、＋１５ｄＢ以下になるよう、外付けのフィルタ等で抑圧してください。
4	・レベルが７５ｄＢμＶ以上の場合 	外付けアッテネータ（別売）をご使用ください。
5	・レベルが５０ｄＢμＶ以下の場合 	外付け前置増幅器（別売）をご使用ください。

１２．２　出力レベルの調整方法

（１）出力モニタ端子の測定

●出力レベルは出力モニタ端子（－２０ｄＢ）で測定することができます。
実際の出力レベルは測定値に２０ｄＢを加えた値となります。

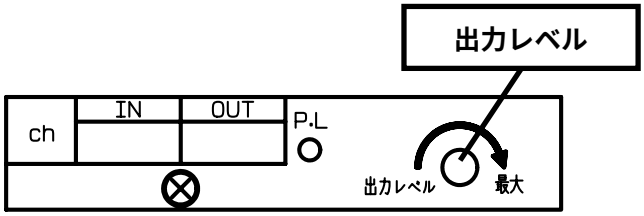
●本装置の標準出力レベルは、９０ｄＢμＶ以上となっています。
（工場出荷時は最大出力レベル）



出力モニタ端子の測定レベル	実際の入力レベル
７０ｄＢμＶ	９０ｄＢμＶ

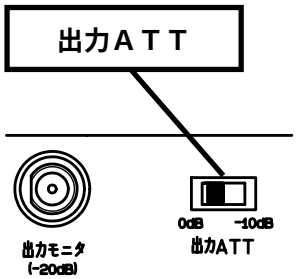
（２）出力レベルの調整（チャンネルコンバータユニット部）

●チャンネル毎の出力レベルは、それぞれのチャンネルコンバータユニット部にある「出力レベル調整」ボリュームで、チャンネル毎に０～－１０ｄＢ連続で調整を行うことができます。
ボリュームは、調整ドライバ等を用いてゆっくりと回してください。



（３）出力レベルの調整（本体操作パネル部）

●全チャンネルの出力レベルは、本体の操作パネル部になる「出力ＡＴＴ」スイッチで、０ｄＢ／－１０ｄＢいずれかに調整することができます。
スイッチを操作するときは、確実に切り替えてください。



⚠ 注意

ＯＦＤＭ信号のレベル測定は、専用の測定器を用いる。

１３．入力端子の切替方法（ＬＩＮＥ/A、ＬＩＮＥ／B）

本体部スロット 4､5 は､本体奥にある切替スイッチにより､入力端子をそれぞれ｢ＬＩＮＥ｣又は｢A｣、｢ＬＩＮＥ｣又は｢B｣に切り替えることができます。

尚、スイッチ操作は指先にて確実に切り替えてください。

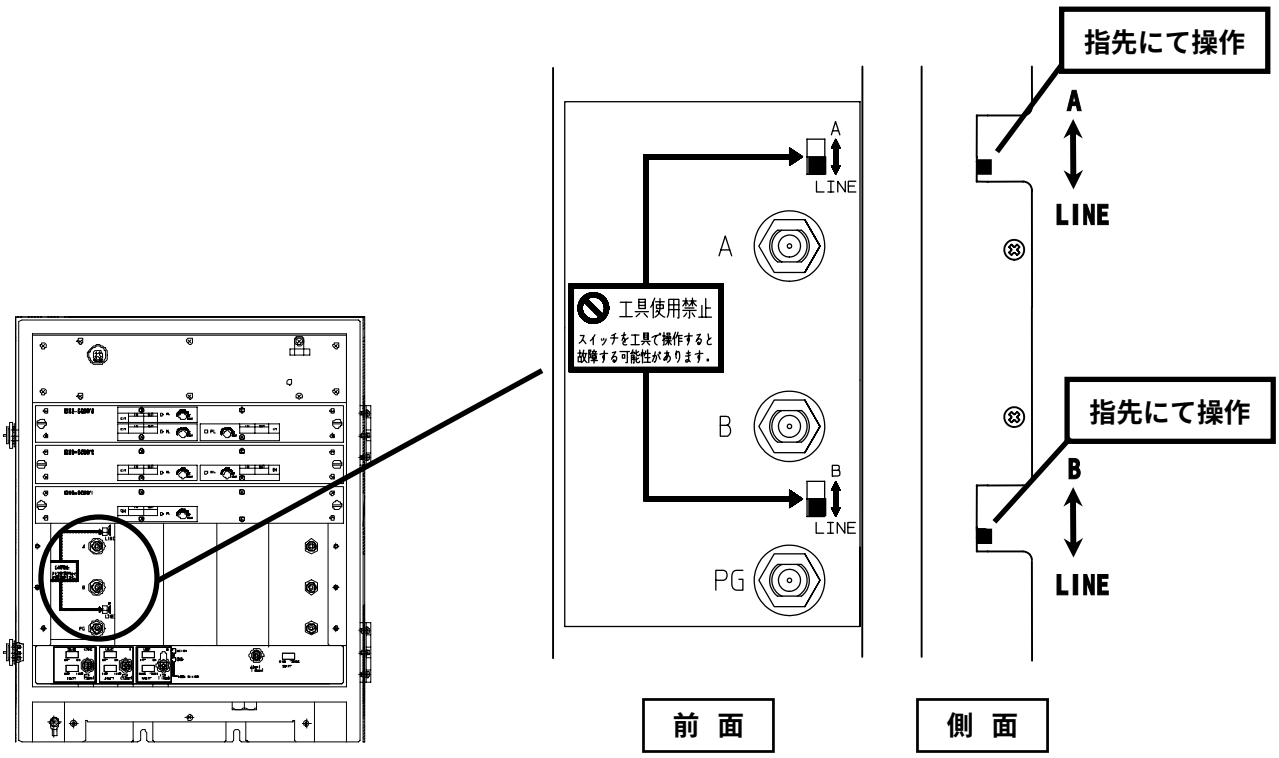
工具等を使用すると故障の原因となります。

●スロット 4 切り替え時は、１４．１項に従いスロット 4 に実装されたチャンネルコンバータユニットをゆっくりと取り外し、本体奥にあるスイッチを指先で確実に切り替えてください。
切り替え後、同様にゆっくりと押し込み、ユニット左右２本のローレットネジを確実に締め付けてください。

●スロット 5 切り替え時は、１４．１項に従いスロット 5 に実装されたチャンネルコンバータユニットをゆっくりと取り外し、本体奥にあるスイッチを指先で確実に切り替えてください。
切り替え後、同様にゆっくりと押し込み、ユニット左右２本のローレットネジを確実に締め付けてください。

⚠ 注意

スイッチ操作は指先で行い、絶対に工具を使用しないこと。
●故障、感電の原因となります

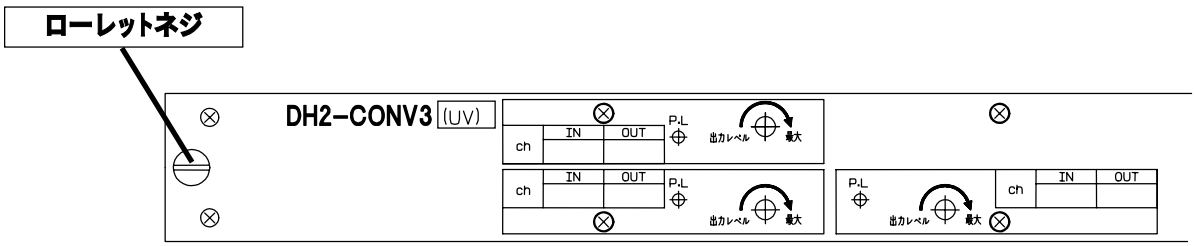


１４．保守・メンテナンス

１４．１　チャンネルコンバータユニットの外し方、取付け方

●取り外し時は、ユニット左右２本のローレットネジをゆるめ、ネジ頭をそれぞれ指でつまんでユニットごと手前に引き出してください。

●取付け時は、ユニットの上下を確認の上、スロットにユニットを差し込んで同軸コネクタが勘合するまでゆっくり押し込み、ユニット左右２本のローレットネジを確実に締め付けてください。



⚠ 注意

ユニット固定ネジ以外のネジは絶対に取り外さない。
●感電・ショートの原因になります。

ユニットは両手でしっかり支えて、ゆっくりと引き抜くこと。
●ユニットは取り外しが堅い場合があります。
　強く引き抜こうとするとユニットを落としたり、けがをする恐れがあります。

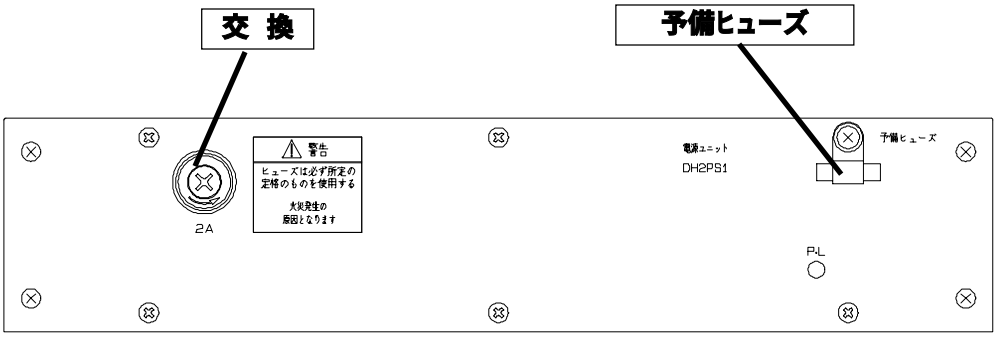
交換ユニットの下スロットが空きの場合、ユニット下面に手を添えて、ゆっくりと抜き差ししてください。
●ユニット落下の恐れがあります。

ローレットネジは、確実に締め付けること。

ユニットは差し込む位置を間違えないこと。
●ライン入力対応、ヘッド入力対応それぞれの専用スロットがあります。
　詳細は「１０．各部の名称と構成」を参照してください。

１４．２　電源ユニット　保護ヒューズ交換（ＤＨ２ＰＳ１使用時）

●ＤＨ２ＰＳ１（AC100V）用保護ヒューズが断したとき、同電源ユニットに備え付けの予備ヒューズ（１ヶ、２．０Ａ）を使用し、ヒューズ交換を行ってください。



⚠注意

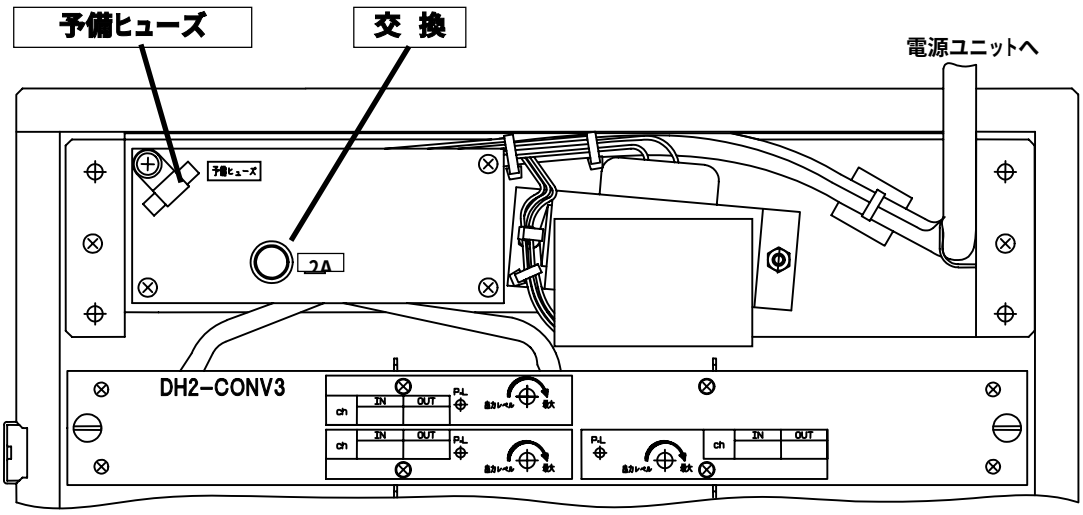
ヒューズを交換する場合は、必ず電源オフとすること。
●ケーブルやトランス等に触れると、感電やショートの原因になります。

交換するヒューズは、同一規格・形状のものを使用する。
●火災の原因になります。

１４．３　入力送電　保護ヒューズ交換

●入力送電用保護ヒューズが断したとき、電源ユニットを取り外して備え付けの予備ヒューズ（１ヶ）を使用し、ヒューズ交換を行ってください。
ヒューズ容量は、ＤＨ２ＰＳ１、ＰＳ３が１．０Ａ、ＤＨ２ＰＳ２は２．０Ａです。

●電源ユニットを取り外すと、ユニットと本体を繋ぐケーブルがＤＨ２ＰＳ１の場合は１本、ＤＨ２ＰＳ２、ＤＨ２ＰＳ３の場合は２本あります。（下図はＤＨ２ＰＳ１の場合）
作業の際は電源ユニットをゆっくりと引き抜き、ケーブルへストレスのなきようご注意ください。



⚠注意

ヒューズを交換する場合は、必ず電源オフとすること。
●ケーブルやトランス等に触れると、感電やショートの原因になります。

交換するヒューズは、同一規格・形状のものを使用する。
●火災の原因になります。

１４．４　チャンネル増設時の取扱について

（1）電流容量の増加

●チャンネル増設した場合、消費電流が増加しますので、供給電源の容量に十分注意してください。

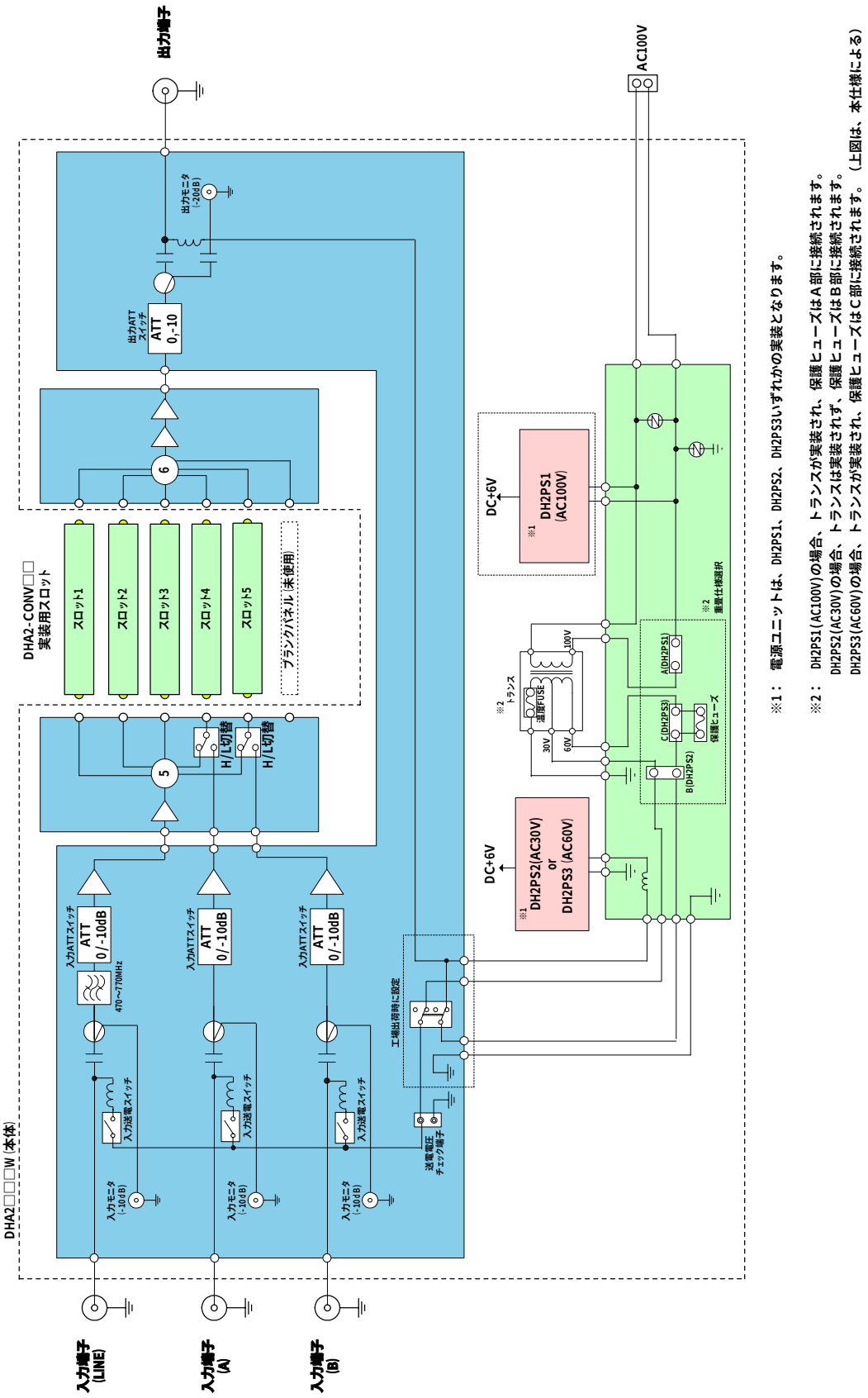
⚠注意

ユニット増設の場合、電源供給器の電流容量を確認する。
●電源供給器の電流容量を超える場合は正常動作しません。大容量の電源供給器に交換するか、増設を行ってください。

（2）　送信、受信周波数の変更

●送信周波数を変更する際には、受信者に再度、受信機のチャンネル設定を促す必要があります。

１５．　ブロックダイヤグラム



※1：　電源ユニットは、DH2PS1、DH2PS2、DH2PS3いずれかの実装となります。

※2：　DH2PS1(AC100V)の場合、トランスが実装され、保護ヒューズはA部に接続されます。
DH2PS2(AC30V)の場合、トランスは実装されず、保護ヒューズはB部に接続されます。
DH2PS3(AC60V)の場合、トランスが実装され、保護ヒューズはC部に接続されます。（上図は、本仕様による）